

(評価者：担当委員)

モニタリング項目	No. 6 ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査		
モニタリング実施主体	環境省釧路自然環境事務所		
対応する評価項目	II. 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること。 III. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。 IV. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること。 VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。		
モニタリング手法	ウトロ港から知床岬を経て相泊港までの区画ごとの繁殖数をカウント。ケイマフリは、生息が確認されている範囲において海上の個体数をカウント。営巣数の変動についても記録する。		
評価指標	営巣数とコロニー数、特定コロニーにおける急激な変動の有無。		
評価基準	おおよそ登録時の営巣数が維持されていること。		
評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	ケイマフリの営巣数は、営巣数 47 巣と、2002 年からのデータと比較すると平年並みの数を維持している。 2014 年のコロニー数 6 (最大営巣数：プユニ岬～男の涙 25、男の涙～象の鼻 4、象の鼻～岩尾別 0、岩尾別台地 I 12、岩尾別台地 II 5、トークシモイ 1) その他の海鳥の営巣数は減少傾向である。 ・オオセグロカモメ 411 巣 ・ウミネコ 12 巣 ・ウミウ 314 巣		
今後の方針	継続してモニタリングを実施する。		

※「今後の方針」には、評価を踏まえた対応方針（例：現状のモニタリングを継続、モニタリング項目の追加、〇〇事業の実施 等）を記載

<調査・モニタリングの手法>

営巣分布調査の調査地域は、知床半島全域の斜里町ウトロ港周辺から羅臼町相泊港までを調査範囲とした。調査時期は、海鳥類の抱卵期後期から育雛期前半の期間、調査方法は、フレペの滝周辺とウトロ港周辺は陸上から行い、他の地域は海上から調査を行った。ケイマフリの個体数調査は、6月から8月の間に、ケイマフリが海上で生息するウトロ港からエエイシレド岬までの岸から約 600m 以内を調査した。

<調査・モニタリングの結果>

○ケイマフリ

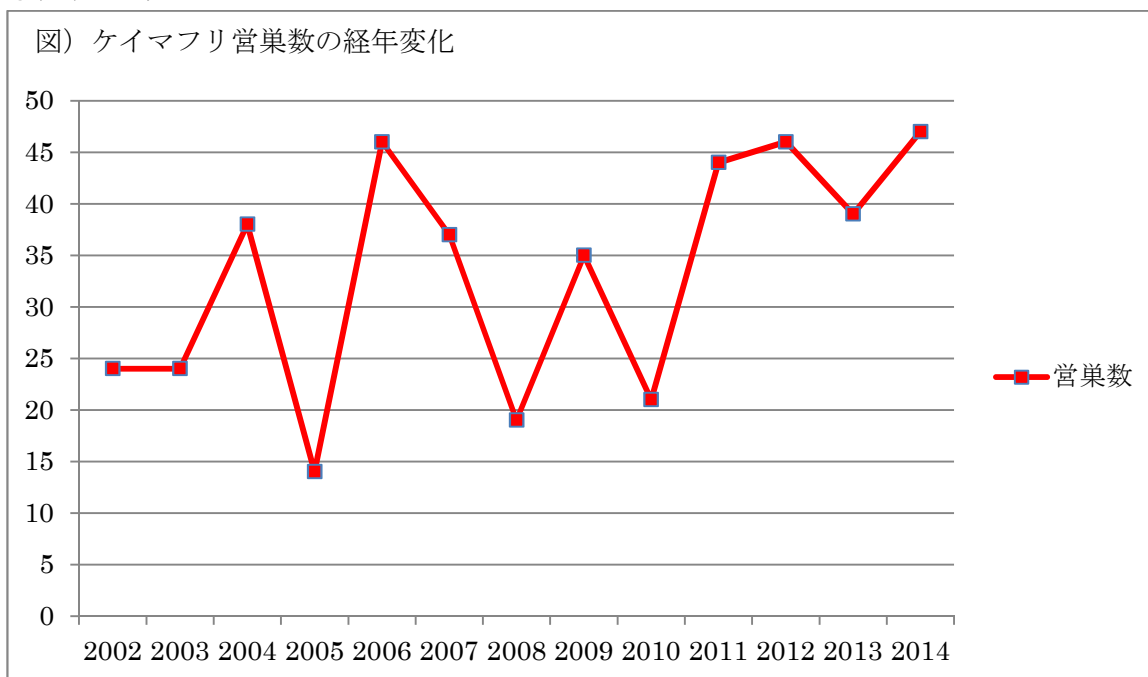


表) ケイマフリ最大個体数の経年変化 (2002年～2014年)

年	2002	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
最大個体数	129	148	129	140	107	98	95	96	142	140	131	176

表) ケイマフリ 2014年日別個体数の変化

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月日	6/6	6/9	6/10	6/22	7/9	7/14	7/17	7/18	7/25	7/26	8/1	8/20
個体数	79	118	100	111	176	79	135	98	170	136	79	1

表) ケイマフリの営巣数の経年変化

年	2002	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
営巣数	24	38	14	46	37	19	35	21	44	46	39	47

- ・ケイマフリの営巣数 47 巣、プユニ岬が 25 巣と最大であった。
- ・ケイマフリの最高個体数は、2002 年に調査を開始して以来過去最高の 176 羽を数えた。
- ・最高羽数を調査した日は 7 月 9 日であった。

地域名/年	2002	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
プユニ岬～男の涙	10	11	7	25	24	6	25	9	23	21	19	25
男の涙～象の鼻	10	3		4	1	1	1	3	6	4	4	4
象の鼻～岩尾別	1	4	5	8	2		1	1	0	1	0	0
岩尾別台地Ⅰ		12	2	4	7	8	4	6	5	8	10	12
岩尾別台地Ⅱ		1		2	2	4	3	2	9	11	6	5
トークシモイ	3	7		3	1		1	0	1	1	0	1
Total	24	38	14	46	37	19	35	21	44	46	39	47

表) ケイマフリの最大営巣数の経年変化 (2002～2014年)

○オオセグロカモメ

表) 2006年～2014年オオセグロカモメのウトロ市街地から羅臼相泊までの営巣数

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
営巣数	1797	1458	1154	1198	1215	1153	821	337	411

図) 2006年～2014年オオセグロカモメのウトロ市街地から羅臼相泊までの営巣数

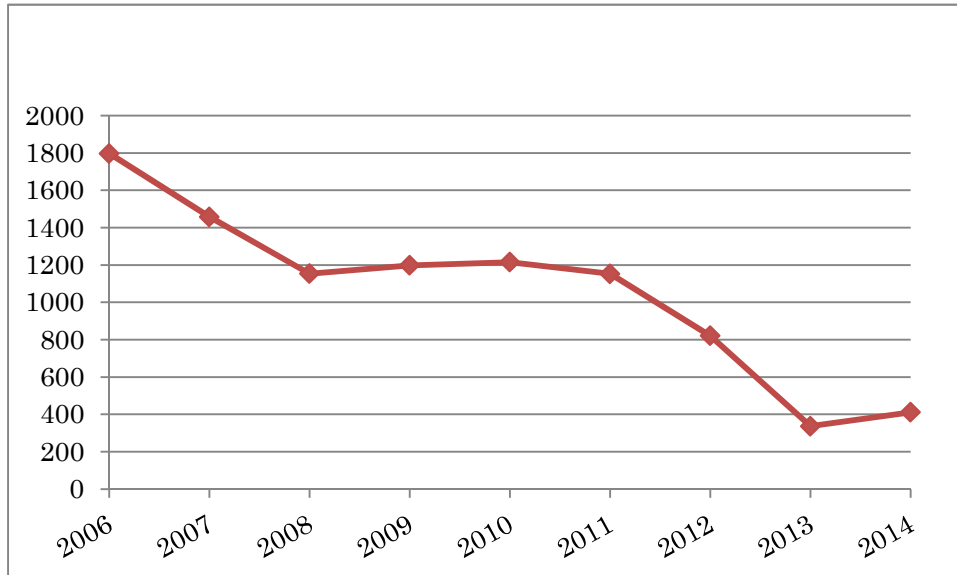
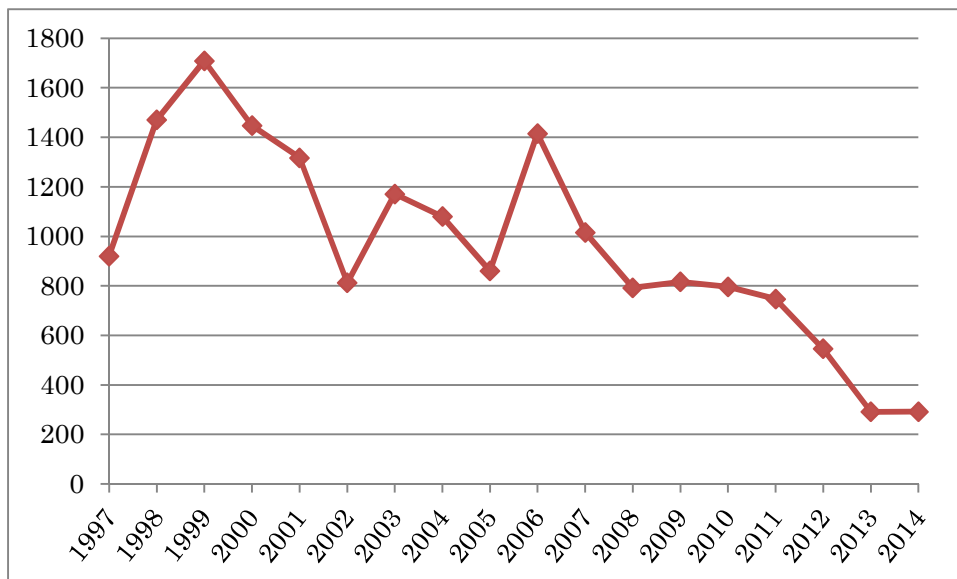


図) 1997年～2014年のウトロ側のオオセグロカモメの繁殖数



○ウミネコ

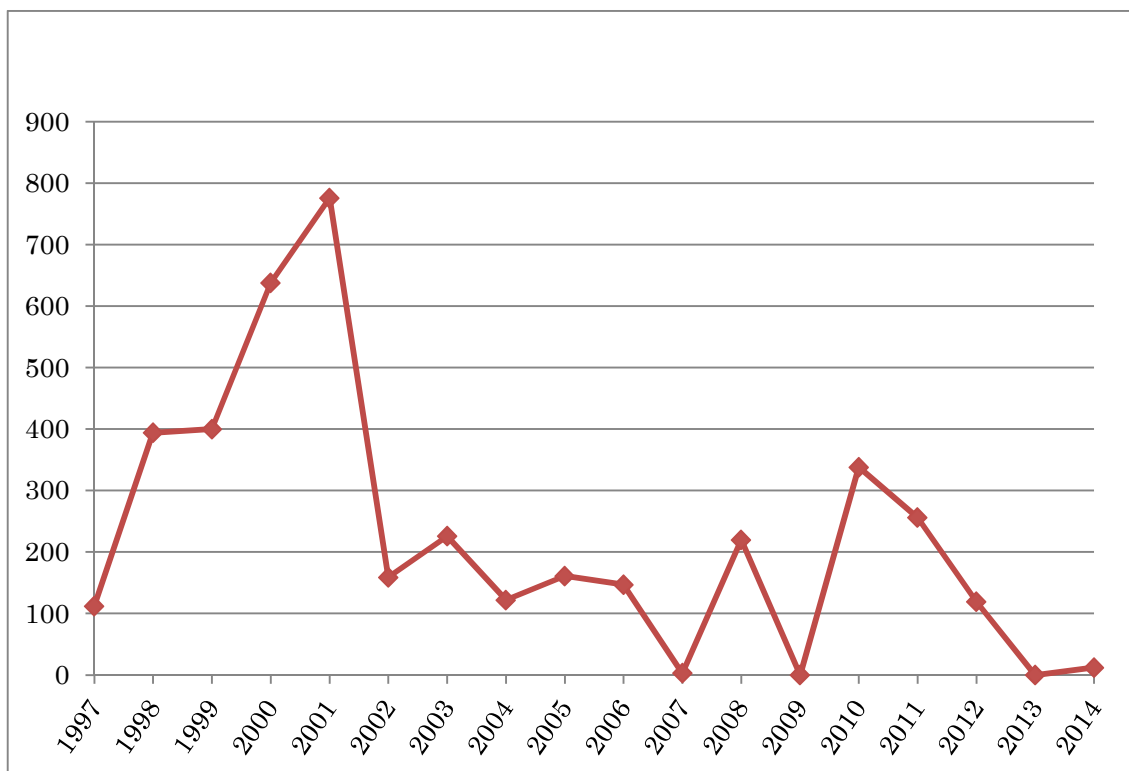
表) 1997年～2014年知床半島全体におけるウミネコの繁殖数の変化

年	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
営巣数	112	394	400	638	776	159	226	122	161

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
営巣数	147	3	220	0	338	256	119	0	12

ウミネコはウトロ側のみで繁殖するためウトロ側のデータのみ

図) 1997年～2014年知床半島全体におけるウミネコの繁殖数の変化



2013年の繁殖数は0であったが、2014年はプユニ岬に12巣を確認した。

しかし、巣立ちしたところは観察していなく、オジロワシが侵入していたため捕食された可能性もある。

○ウミウ

表) 2006年～2014年知床半島全域におけるウミウの繁殖数の変化

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
営巣数	747	445	628	806	642	439	533	165	314

図) 2006年～2014年知床半島全域におけるウミウの繁殖数の変化

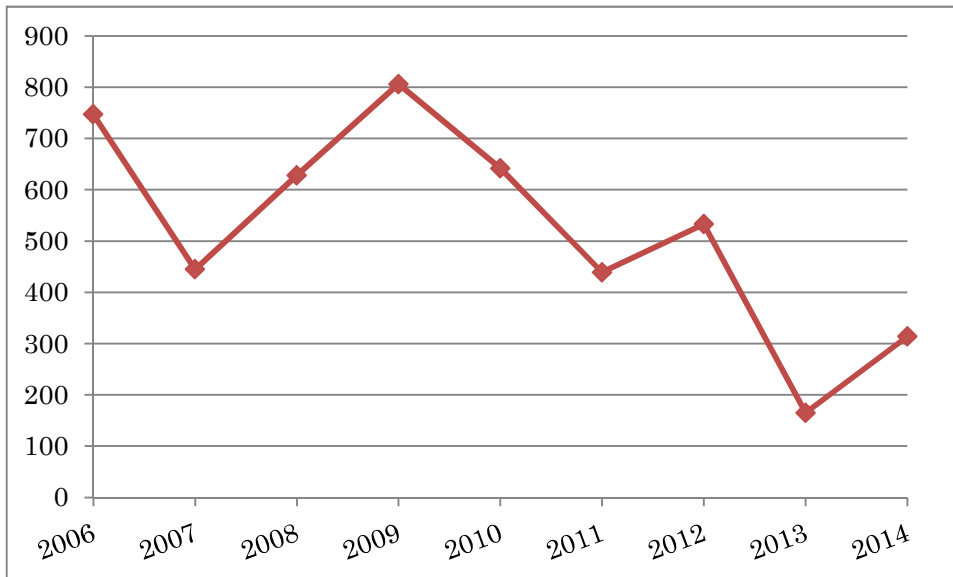
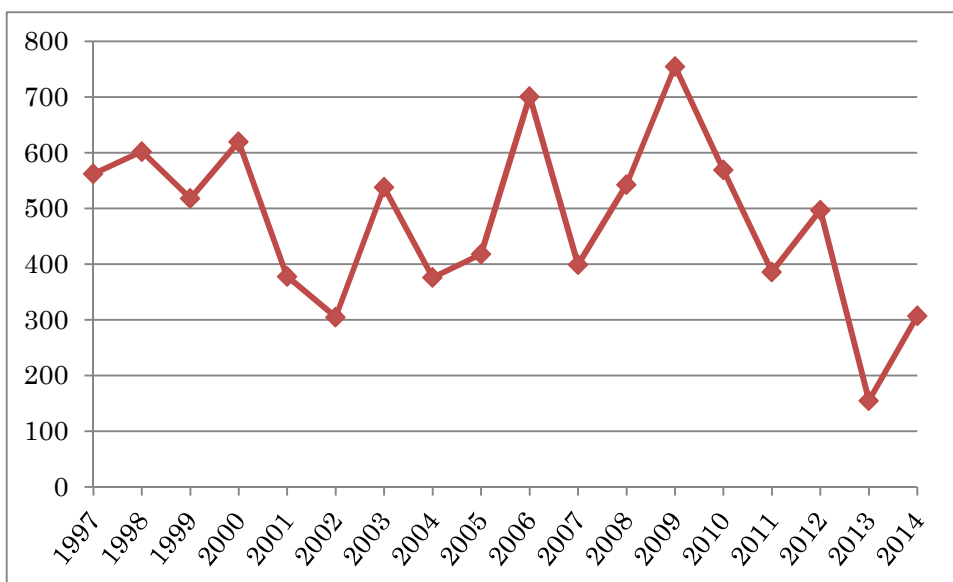


図) 1997年～2014年ウトロ側におけるウミウの繁殖数の変化



まとめ

ケイマフリは過去最高羽数を数えた。オオセグロカモメ・ウミネコ・ウミウは、昨年の繁殖期前期の大雪のため影響を受け繁殖数を減少させたが、今年も回復することはなく1昨年よりも減少している状況であった。

特筆事項

これまでは、ヒグマによる海鳥の繁殖地への侵入による捕食が多く見られ、フレペの滝などの営巣地の消滅など影響を与えてきた。

それに加え昨年頃からオジロワシが頻繁に繁殖地に飛来し、頻繁に海鳥の雛を捕食する場面が観察された。7月25日12羽（成鳥7羽・亜成鳥5羽）がプユニ岬から知床五湖の断崖付近までで観察された。これまで18年ほど調査してきたが多くのオジロワシの飛来は見られなかった。今後は、オジロワシによる海鳥類への影響について詳しく調査する必要がある。